

愛媛県上黒岩遺跡における 生活空間について

縄文時代草創期・早期の定住化に関連して

Living Space at the Kamikuroiwa Site in Ehime Prefecture : In Connection
with Settlement at the Initial Stage of the Jomon Period and in the Early
Jomon Period

矢作健二

YAHAGI Kenji

はじめに

- ①上黒岩遺跡の位置と地質・地形・層序および発掘調査成果
- ②最終氷期から後氷期に至る環境変動と上黒岩遺跡周辺の地形形成
- ③上黒岩遺跡における段丘の認識

【論文要旨】

縄文時代草創期・早期の遺跡である愛媛県上黒岩遺跡は、これまで岩陰遺跡として発掘調査がなされ、最近では、その成果の再調査と再評価により、縄文時代草創期には狩猟活動に伴うキャンプサイト、早期には一定の集団が通年的な居住をしていたと考えられている。しかし、岩陰からの明確な遺構の検出記録はない。上黒岩遺跡の岩陰を構成している石灰岩体の分布や山地を構成している泥質片岩の分布に、縄文時代草創期から早期に至る時期の気候変動を合わせて考えると、遺構を遺すような生活空間は、山地斜面と久万川との間に形成された狭小な段丘上の地形にあったと推定される。

【キーワード】 晩氷期・新ドリラス期・河谷の埋積と浸食・生活空間・活動痕跡